

コミュニケーション領域



【必修科目ディベート（日本語）の講義風景】

こんな科目を履修しましょう

1年次

文章表現法ⅠとⅡ、自己形成概論、
ディベートⅠとⅡ、基礎ゼミⅠとⅡ、
英語ⅠとⅡ（全て必修科目）
ドイツ語ⅠとⅡ、中国語ⅠとⅡ、
朝鮮語ⅠとⅡ（すべて選択）

2年次

ディベートⅢ（必）、英語ⅢとⅣ（必）
ディベートⅣ（選）、海外研修（選）、
異文化理解（選）

3年次

English ConversationⅠとⅡ、
国際語としての英語、心理学ⅠとⅡ、
リーダーシップ論、インターンシップ
（すべて選択）

4年次

卒業研究

現代社会では、政治・経済・文化・スポーツなどあらゆる領域でグローバル化が進んでいます。そのような社会において人と人が協力し、互いにより良い未来をデザインするためには、コミュニケーションが不可欠です。相手の意図していることを汲み取り（理解力）、自分の考えをわかりやすく伝える能力（表現力）は、国内外で活躍する人材に必要な要素です。そのため企業は、コミュニケーション能力を新卒者採用時に最重要視しています。

本コミュニケーション領域では、英語の授業以外にも、中国語、ドイツ語、朝鮮語などの言語が学習できます。また、心の働きを考える心理学や、論理思考を構築するディベート、その他インターンシップや海外研修などを通して、人間性豊かな人材を総合的に育成します。

学修の流れ

この領域に関連する科目の多くが1、2年生の必修科目になっています。

1年次に開講される「基礎ゼミ」は、小グループでのディスカッションを継続します。「ディベートⅠ～Ⅳ」では、社会的な問題を題材に討論を行います。

「英語」はⅠからⅣ（2年後期）までが必修ですが、英語によるコミュニケーションに興味がある人は、2年次後期の「海外研修」を履修し、現地実習として海外でのホームステイを体験できます。

さらに発展として、3年次の「国際語としての英語」や「English Conversation」で英語の知識理解やスキルを深めることができます。語学に限らずリーダーシップ論や心理学で人間のあり方について学ぶこともコミュニケーションを学ぶ上で有効です。インターンシップは実際に企業で実習を行い、現実のコミュニケ

達成目標

特に人と人のかかわり合いが重視される仕事で、自己表現力と相互理解の力を発揮する人材になる。